2019年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名(英)	映像企画・取材学 (Scenario and Concept)		
ナンバリングコード	P11401	大分類 / 難易度 科目分野	情報メディア学科 専門科目 / 基礎レベル 映像デザイン
単位数	2	配当学年 / 開講期	1 / 後期
必修・選択区分	コース必修:メディアデザインコース コース選択必修:情報コミュコース 選択:情報工学コース、こども・情報教育コース		
授業コード	P140151	クラス名	
担当教員名	小島　康史		
履修上の注意、履修条件	情報デザインコースの必修科目です。 情報デザインコースを目指す諸君は、必ず受講しなければいけません。 皆さんの身近な表現メディア＝動画ニュース、新聞、雑誌記事、テレビ、DVD、映画、ラジオ放送などから流される情報を、「対象」と「目的」として考えながら見る習慣を付けておく。特に新聞は日頃から目を通しておくこと。		
教科書	教科書は使用しませんが、必要な資料は適宜配布します。		
参考文献及び指定図書	・分かりやすい文章の技術　藤沢晃治著　(講談社:ブルーバックス) ・分かりやすい表現の技術　藤沢晃治著　(講談社:ブルーバックス) ・分かりやすい説明の技術　藤沢晃治著　(講談社:ブルーバックス)		
関連科目	情報デザイン入門、映像機器学及び演習、映像構成・演出学及び演習、取材実践・編集学及び演習、情報デザイン総合演習		

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確認等)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	綿密な調査や集積できた情報の評価を行い、対象や目的に沿った映像シナリオ(長さは5分前後)を制作できる。		20点	5点
【知識・理解】	綿密な調査や集積できた情報の評価を行い、対象や目的に沿った映像シナリオ(長さは5分前後)を制作できる。		25点	10点
【技能・表現・コミュニケーション】	綿密な調査や集積できた情報の評価を行い、対象や目的に沿った映像シナリオ(長さは5分前後)を制作できる。		15点	
【思考・判断・創造】	綿密な調査や集積できた情報の評価を行い、対象や目的に沿った映像シナリオ(長さは5分前後)を制作できる。		20点	5点

○到達目標に対する到達度の目安、および、成績評価の補足

[Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

○授業の目的・概要等		
授業の目的	どんな映像作品でもスタートはゼロからです。そこから企画を考え、取材をしていき、企画書をこしらえます。企画書がクライアントや仲間に受け入れられなければ、何事もスタートできないのが、映像世界の掟でしょう。こうした映像作品を作りたい！こんな映像作品を見てみたい！と思わせる説得力をもつ企画書、つまり企画書のA4の紙こそが、最初の演出表現となります。演出表現は、その映像作家の眼差しとも言えるもので、多くの人々から共感を得られるメッセージが込められたものです。芸術的なセンスも求められはしますが、あくまでもコミュニケーションツールです。つまり、「心に響くメッセージ」が求められています。 　本科目では、情報デザインに欠かせない要素である映像表現のベースとなる企画構成力の習得を目標に、取材交渉を重ねながら、情報デザイン＝「自ら表現したいもの(演出)」を醸成します。	
授業の概要	受講者一人ひとりが、大学近辺の人物を対象にしたドキュメンタリーの企画を考える。どうしてその企画を考えるように至ったのか？　企画の面白さや発見を通して普遍的なテーマを導き出したい。さらに自らの企画意図を他者に伝える企画書を作成し、スタッフの理解を得られるようにしたい。次に企画案について検討･討論し、企画に賛同するスタッフによるグループを形成する。グループは取材対象者に最低2回はインタビューなどを行い、それらの音声や写真を切り出し･選び出しを行い、テーマや演出意図に即した最終的に10分程度にまとめた発表を行う。発表後には質疑応答や講評を行います。	
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目		
実務経験のある教員による授業科目	小島康史 本授業の学習対象である映像企画取材の分野(プロモーション、記録、ドキュメンタリー、映画、テレビ、CM等)において、ディレクター、プロデューサー業務を30年間従事している。	

○備考欄

期末試験・レポート等の学修成果課題のフィードバック方法は、教員のコメントを添えて返却します。

2019年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画　科 目 名 ： 映像企画・取材学（Scenario and Concept ）　授業コード：P140151
担当教員： 小島　康史

学修内容

1.
企画の発想法を習得する。まずは身近な新聞から題材を選び出し、どのようなところが自分にとって面白いのか検証する。

予習： 新聞を活用して、興味のある人物をピックアップする。（約2.0h）
復習： 企画の成立要素を検証する。（約2.0h）

2.
個人による企画を持ち寄り発表を行う。質疑応答をはかる。企画案がどの程度興味を沸かせるものか検証する。

予習： 新聞やインターネットを活用して、興味のある人物をピックアップする。（約2.0h）
復習： 企画する人物が置かれた環境について調査する。（約2.0h）

3.
再企画案の発表を行い、質疑応答をはかる。自分が描く世界観と他者が描く世界観との相違を検証する。

予習： 人物の魅力について検証する。（約2.0h）
復習： 登場人物の周辺取材について調査をする。（約2.0h）

4.
最終的な企画案の発表を行い、スタッフと質疑応答をはかる。グループによって項目ごとの調査を行う。

予習： 企画のテーマについて考察する。（約2.0h）
復習： 企画書の作成。（約2.0h）

5.
企画案を決定する。企画案を作品発表が出来る程度のグループに絞り込む。

予習： 企画案の吟味と参加する企画について検証する。（約2.0h）
復習： 企画案の検討と役割分担を考える。（約2.0h）

6.
グループ取材を行うために対象者との取材交渉、及び調査と周辺取材。素材の面白さや発見をすることによって、テーマを探っていく。

予習： 取材におけるアポ取りと質問を考える。（約2.0h）
復習： テーマの確認とサブテーマの考察。（約2.0h）

7.
取材対象者にどのような話を聞きだしたのか質問事項をまとめる。

予習： 質問事項の検討。（約2.0h）
復習： 取材対象に関する情報収集。（約2.0h）

8.
取材対象者に第1回目の取材を行う。事前取材からの発見や疑問点、発展させたい項目を話し合う。

予習： 録音、撮影機器の確認と戦略を練る。（約2.0h）
復習： インタビューの文字起こし作業。（約2.0h）

○授業計画　科 目 名 ： 映像企画・取材学（Scenario and Concept ）　授業コード：P140151
担当教員： 小島　康史

学修内容

9.
第1回目の取材をまとめる。取材した中での被写体の重要な主張の抜き出しと写真の選び出し。構成案の検討。

予習： 文字起こしより興味あるところを抜粋する。（約2.0h）
復習： 不足している項目の洗い出しを行う。（約2.0h）

10.
第1回目の取材をもとに、多角度から検証と保管を行うために資料やデータを収集する。

予習： インタビューからさらに深く知りたいことを考察する。（約2.0h）
復習： 周辺調査と情報収集。（約2.0h）

11.
第1回目の取材結果から予測・導き出される発見やテーマを話し合う。

予習： テーマについて考察する。（約2.0h）
復習： 構成要素について考察する。（約2.0h）

12.
取材対象者に第2回目の取材を行う。前回の取材からの発見や疑問点、発展させたい項目を話し合う。

予習： インタビュー項目を考える。（約2.0h）
復習： インタビューの文字起こし作業。（約2.0h）

13.
第2回目の取材をまとめる。取材した中での被写体の重要な主張の抜き出しと写真の選び出し。構成案の再検討。

予習： 被写体の魅力と発見を考察する。（約2.0h）
復習： 構成案を制作する。（約2.0h）

14.
作品テーマの最終決定。テーマが作品の中心に据えられているのか。無理の無い構成となり得ているか。

予習： 構成暗に沿った演出プランを考える。（約2.0h）
復習： 写真や録音抜粋の選定作業を行う。（約2.0h）

15.
作品を完成させる。グループによる演出プラン通りの作品となり得ているのか。

予習： パワーポイントの制作をする。（約2.0h）
復習： 作品の演出について最終的な確認を行う。（約2.0h）

16. 期末試験
グループによる作品発表を行う。発表時間は10分～13分。取材を基にした音声や写真によって構成する。

予習： 作品発表のリハーサルを行う。
復習： 作品の考察を行ったレポートをまとめる。